

大学・高専の練習船を活用した災害支援対策【文部科学省】



施策概要

国立大学・高等専門学校の練習船について、外部への電力供給や清水の製造・供給機能、支援物資の運搬機能等の災害支援機能を強化した代船を建造

効果

教育・研究機能を強化するとともに、災害発生時に物資輸送や電力供給等、適切な災害支援の実施が可能

大学、高等専門学校
(北海道大学、大島商船高等専門学校等)

全国各地の
大学・高等専門学校

災害支援機能を有する
練習船整備事業

全国的な対策と効果

災害支援機能を強化した代船を4隻建造し、大規模災害発生時の備えを強化



うしお丸
(令和4年度竣工)
(北海道大学)



大島丸
(令和4年度竣工)
(大島商船高専)



弓削丸
(令和5年度竣工)
(弓削商船高専)



鳥羽丸
(令和6年度竣工)
(鳥羽商船高専)

【船舶に関する法令対応】

- 船舶設備規定、船舶防火構造規定、海洋汚染防止法の遵守
- 学生居住区を喫水線上に設置

【災害支援機能の充実】

- 支援物資要塞スペース・揚降設備
- 緊急時の衛星設備の確保

+

- 女性居住区の利便性とセキュリティの確保
- 高度な実習に備えたブリッジ・エンジン制御施設

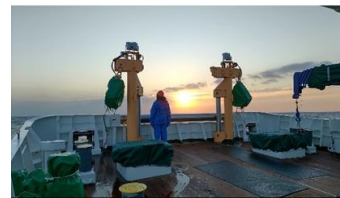
5か年加速化対策の効果

近年の災害時等における高専練習船の活用例

高専名	船名	災害等名(時期)	概要
弓削商船高専 広島商船高専	弓削丸 広島丸	平成30年7月豪雨 (平成30年)	弓削商船高専の所在する愛媛県越智郡上島町が断水したため、2つの高専練習船が連携し給水・入浴支援を実施。
富山高専	若潮丸	能登半島地震 (令和6年)	七尾市において断水が続いていたため、救援物資の輸送を実施。

南海トラフ地震や首都直下地震といった大規模災害の発生時に、自治体との協定や要請等に基づき、高等専門学校の練習船(令和6年度現在5隻)を活用し、海上からの食料・飲料水・電力等の供給により被災地支援を実施することができる見込み

<高専練習船の整備例>



広い甲板(多量の災害救援物資の搭載が可能)



飲料水2万Lと男女別の衛生区画の提供が可能

<令和6年能登半島地震における富山高専「若潮丸」による救援物資支援>



学生が積載作業に協力



七尾港に向かう若潮丸

代船建造時に災害支援機能を盛り込み、海上から食料・飲料水・電力・通信インフラ・入浴機会等を供給する体制を構築した。また、空中・水中ドローンを用いた遭難者捜索・被害状況提供も可能とした。

事業の背景

大学・高専が所有する練習船は、学生等の教育研究での活用の他、災害によって陸路での運搬が困難な被災地等への救援物資の運搬や被災者への給水支援など災害支援機能の役割を担ってきました。南海トラフ地震や首都直下地震といった災害時においても、自治体との協定や要請等に基づき、練習船を活用するため、老朽化が著しい練習船の代船を建造の際に、災害支援機能の充実を図るものです。

事業の内容

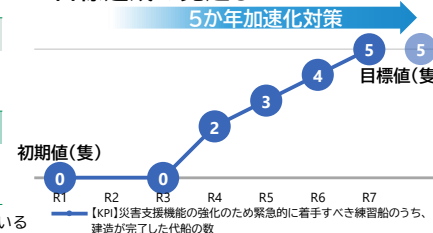
5か年加速化対策では、老朽化が著しい国立大学・国立高等専門学校が保有する練習船の代船を建造に際して、災害支援機能を充実を図っており、令和7年度までに5隻の船舶を整備予定で、令和6年度までに4隻が完成しました。

例えば、弓削商船高等専門学校の弓削丸は、貯水・造水設備や輸送設備の整備などにより災害支援機能を強化しました。

■ 予算額(国費)(加速化・深化分)

R3	R4	R5
40億円	45億円	39億円
R6	R7	累計
51億円	55億円	231億円

■ 目標達成の見通し



※ このほか、加速化・深化分以外の予算も措置されている

(1) 人命・財産の被害最小化

激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策

(2) 交通・ライフラインの維持

2 インフラの老朽化対策

(1) 3 国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進

施策のデジタル化

(2) 災害関連情報の高度化